平成 24 年度学習内容定着度調査分析（宇都宮市立清原北小学校６年）

【国語】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語	話し手の話し方の工夫を考えながら、話の内容を聞くことは概ね身についているが、話し手の意図を考えて内容を聞くことの正答率は低かった。	日常的に「話す、聞く」活動を取り入れ、話の要点の聞き取り方や話し手の思いを考えながら聞くことについて、継続して指導する。
説明的文章	文章の内容を的確に読み取ることは正答率が高かったが、文と文のつながりを考えることや段落のまとまりを考えることについては正答率が低かった。	文章の前後の関係をとらえた上で接続語の働きを考えたり、文章全体を見わたして段落と段落の関係をとらえたりする指導を積み重ねる。
文学的文章	登場人物の様子を読み取ることや語句の補充はよくできたが、登場人物の心情や場面の様子を読み取る問題では正答率が低かった。	登場人物の気持ちを読み取るうえでかぎとなる語句をとらえる指導を続けながら、難解な語句や慣用句なども小まめに取り上げ、言葉に対する感覚を鋭くさせたい。
漢字	「読み」は大変高い正答率で概ねよくできていた。しかし、「書き」は正答率が低く、４問中３問で市の正答率を下回っていた。	新出漢字を学習する場合には、書き順や読み方だけでなく、漢字の成り立ちや意味、部首についても指導し、習得を図る。日常の表現指導（ノート、作文、日記、手紙）においても漢字を使う指導の徹底を図る。
言語事項	熟語の構成（三字熟語）や俳句についてはよく理解しているが、敬語の使い方が十分身についていない。	普段から目上の人には敬語で話すように指導しながら、日常的に敬語を使う意識を高めていきたい。
作文	指定された長さで文章を書くことについては、上手く文章をまとめられなかったり、言葉が足りなかったりする児童が多く見られた。	再話や読書、日記などの活動を通して、簡潔に考えをまとめることや語彙力の向上を図る。

【社会】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然	内容と合致する資料を選択することや複数の資料の変化を読み取ることはよくできていた。しかし、森林のはたらきについて選択する問題では、誤りが目立った。	地理の分野においては、森林や川、山などの自然がどのようなはたらきをしているのかを映像などの教材を活用して確認させ、児童の理解を深めていきたい。
情報産業や情報化社会	新聞、テレビ、インターネットなどの様々な情報手段の特色をよく理解している。しかし、それぞれの情報手段を利用している目的や情報を利用する際の注意点については誤りが多かった。	それぞれの情報手段の特色を生かして、実際にどんなことに利用されているのか具体例を提示して、情報と産業の関わりについて考察させるようにする。
歴史	縄文時代から江戸時代までの歴史については、十分身についている。しかし、明治維新の出来事については、理解が不十分である。また、各時代の文化や学問についても、誤りが目立った。	江戸時代以降は、外国からの文化や学問が盛んになったり、政治についても大きな変革がみられたりする。年表に出来事を整理し、それと関連付けて、人物や文化、学問をしっかり理解できるようにしたい。

【算数】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	分数の計算は高い正答率であったが、「２/３Ｌの重さが３/５ｋｇの油１Ｌの重さ」を求める文章題では、式の立て方を誤った子が多くみられた。	問題文に分数や小数が入ると、児童は答を予想しにくい。数値を整数に置き換えて考える習慣をつけさせたい。
量と測定	面積、体積の問題については高い正答率であったが、速さ、特に時速を分速に直す問題では誤りが目立った。	時速を分速に直す場合は「時速÷６０」であるが、速さの単位の関係の理解が不十分なので、類題に取り組ませたい。
図形	線対称や点対称になっている図形を判別したり、対応する点を見つけたりするも問題はよくできていたが、円をつかっての正多角形のかき方では正答率が低かった。	正多角形の特徴を復習しながら、様々な作図方法を通して、図形に対してより理解を深められるようにしたい。
数量関係	反比例の式、比の一方の値についての正答率が市の平均を下回ったが、その他の問題については良くできている。	比例、反比例について表にまとめて考えたりグラフを見て式を考えさせたりして復習をしていきたい。

【理科】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・「ものの燃え方と空気」「水よう液の性質とはたらき」については、市の平均正答率と比べて、概ねよくできていた。しかし、５年生で学習した「ふりこのきまり」「電流がうみ出す力」では、学習内容を忘れてしまったためか、誤りが目立った。また、実際に行った実験とその結果については十分理解しているが、集気びんのすきまをふさぐとなぜ火が消えるのか、性質の同じ液体をどう見分けるのかなど科学的な思考力が不十分である。	・以前、学習した内容については、知識の蓄積ができるように、振り返りの学習の場を設けて、確実な定着を図っていく。思考力の向上については、実験の結果から、どうしてそのようになったのかを、児童同士で考え合う場を多く設け、今まで身につけた知識を生かして、原因を探求できるようにしたい。また、デジタル教材などのＩＣＴ機器を活用して、できるだけ児童が視覚的に学習できるよう工夫する。
生命・地球	・「人のたんじょう」「生き物のくらしと環境」については、よく理解できていた。「植物のからだとはたらき」については、水が植物の中を通る順序やでんぷんを調べるためにはうすいヨウ素液を使用することはよくできていたが、植物がでんぷんをつくるための条件についての理解が不十分であった。「動物のからだとはたらき」では、心臓や肝臓のはたらきについてはよく理解できていたが、血液が肺や全身と受け渡し合う気体の問題では誤りが目立った。	・葉がでんぷんをつくり出す様子や血液が肺で酸素を受け取り、全身に酸素を運ぶ様子を、実際に見ることは難しい。自分で体験したことについては、しっかりと知識として蓄積されるが、図で確認しただけでは、知識の定着は不十分である。実際に見せることが不可能な場合には、ＩＣＴ機器を活用して分かりやすい映像を見せたり、繰り返し学習内容を復習したりして、十分な知識の定着を図る。